

太田 吉浩議員



環境の開発と保全、 どちらが村益に叶うのか

太田議員

本村の再生可能エネルギーは、太陽光だけでなく、小水力や地熱といった多様なポテンシャルがあり、震災前から民間企業体が開発を進めてきた。特に地熱開発は、村が計画段階から大きく関わってきた。一方、村は阿蘇郡市の各自治体と共に、世界文化遺産登録も目指している。地の利を活かした環境開発と、近隣自治体と足並みを揃えた環境保全。村長は、どちらが村益に叶うと考えているのか。

共存共栄は可能

村長

本村では、秩序ある地熱資源活用と保全、自然環境との調和を図りながら、地域の産業振興と雇用創出を目的に地熱条例を制定している。阿蘇地域の世界文化遺産登録と再生可能エネルギーの推進は、どちらも重要で共存共栄は可能だ。

太田議員

私はいずれ、片方が譲らねばならない事態が来ると考えている。その時も共存共栄できる判断・企業支援を期待したい。



熱源となる蒸気の噴気試験

新型コロナウイルス、 村独自で経済政策の考えは

太田議員

新型コロナウイルスが猛威を振るい、国内外で感染が拡大している。

①村長は、村民への情報発信を各課にどのように指示したのか。

また、学校現場は、国からの通達で臨時休校になった。この間の課題は、子ども達が安全かつ楽しく過ごせる環境の整備だ。

②現在の学童体制で、子ども達の安全は確保できるのか。休校が長引く事で、学力や体力面で不安を感じている子ども達や保護者にどう対応するのか。

また、全国的な自粛ムードによる経済活動の停滞で、村内経済の落ち込みが大変懸念される。

③国や県の対策だけでなく、村独自で、柔軟な経済政策を打ち出す考えはあるのか。

現時点での対策は未定

村長

①防災無線での周知、広報誌や村HPでの感染予防啓発に取り組んでいる。今後も県に相談しながら対応していく。イベント開催も県と同様に、不特定多数の参加が見込まれる屋内行事は延期・中止で対応。

教育長

②学童職員が足りない場合は、学校の先生を応援に行かせるが、現在の学童利用は3分の1から半分程度だ。学習面は学校から課題を出し、自宅学習するよう指導し、先生方に家庭訪問や電話で、子ども達とコンタクトを取るよう要請した。体力面はまず感染予防に徹し、家に閉じこもらず、時には外で軽い運動をするよう指導していく。

村長

③村内経済が非常に落ち込んでいると聞いている。現時点での対策は、まだ決めていない。今後の状況を見ながら、議会にも相談し、できる限りの支援を行いたい。